

津波被害跡地に植栽したマツ類および広葉樹類の初期生育（Ⅴ）

－明戸地区植栽試験地の植栽3年後までの成長経過－

1 はじめに

東日本大震災津波の被害跡地に植栽した松くい虫抵抗性アカマツや広葉樹類の生育適性を明らかにするため、県内4ヶ所に植栽試験地を設置した。

今回は、明戸地区植栽木の植栽3年目までの成長経過を報告する。

2 試験地および調査方法

試験地は、沿岸北部の田野畑村明戸地区である(図1)。平成24年6月、400㎡(20m×20m)にアカマツほか9樹種12処理で400本を植栽した。

植栽木の成長は、根元径と樹高の測定により調査した(詳細は既報No.317のとおり)。

3 結果と考察

(1) 直径成長

マツ類では、抵抗性アカマツ(コンテナ苗)の成長が良好であった(図2)。植栽翌年の秋には、他のマツ類普通苗(裸苗)を超越し、植栽3年後には、1割～2割大きくなった。

広葉樹類では、ケヤキの成長が良好で、次いでカシワの順であった。

(2) 樹高成長

マツ類では、大きな差はみられなかった(図3)。広葉樹類では、直径成長同様、ケヤキの成長が良好であり、イタヤカエデも、着実に成長していた。オオヤマザクラは、植栽2年目以降成長が減少傾向であった。

また、ナラ類、クリは、植栽翌年まで、部分枯れ等により樹高成長が停滞または減少(枯れ下がり)した(図4)。3年目になると、ナラ類は、やや回復し、樹高を増加させたが、クリは、樹高の伸びが停滞傾向であった。

明戸試験地では、大湊試験地に比べ、根元径、樹高とも約1～2割小さい傾向であり、より厳しい生育環境と考えられた。

4 成果の活用

大湊試験地より厳しい生育環境でも、松くい虫抵抗性アカマツ(コンテナ苗)は、クロマツと同等の成長を示し、広葉樹類ではケヤキの成長が良好であったことから、植栽樹種として有望と思われる。

今後も、他の試験地と生育状況を比較して評価する必要がある。



図1 明戸地区植栽試験地 (H26.9)

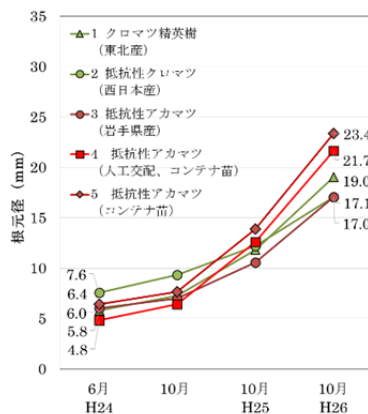


図2 根元径の変化

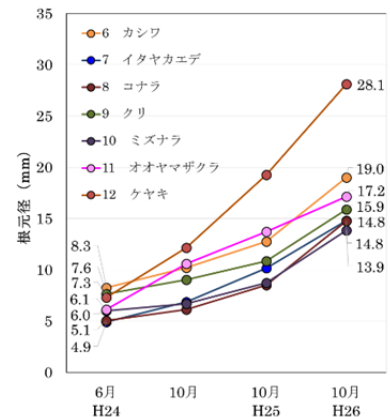
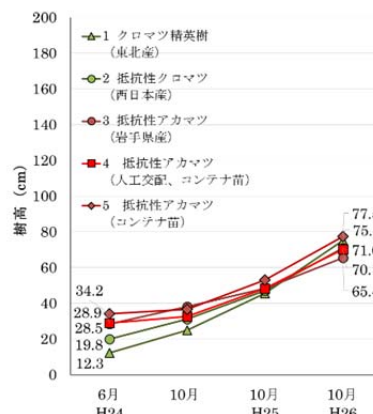


図3 樹高の変化



図4 イタヤカエデの枯れ下がりと回復



(担当 研究部 上席専門研究員 小岩俊行)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
 岩手県林業技術センター
 ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536
 F A X 019-697-1410